



西川口駅西口に 川口市パスポートセンター・ 西川口駅連絡室が移転

10月15日に開所。2階は住民票などを発行する駅連絡室、3階は旅券を発行するパスポートセンターです。パスポートセンターは県内在住のかたも利用することができます。



川口市戦没者追悼式

10月12日に青木町平和公園で挙行。戦争で犠牲となった英霊に献花し、心からの追悼の意と平和への願いを捧げました。市立川口総合高等学校吹奏楽部も参列。次代を担う若者が哀悼の音色を添えました。

KAWAGUCHI

PUBLICITY

川口グリーンフェスティバル2013

10月12日～14日にグリーンセンターで開催。さまざまなイベントでにぎわいました。14日には川口市マスコット「きゅぼらん」などのゆるキャラが登場。市制施行80周年記念植樹や「かわぐち技能フェスタ2013」なども行われました。



緑のステージ



ゆるキャラ大集合



川口市制施行80周年 市長と市民による記念植樹



コスモスと大噴水



かわぐち技能フェスタ 2013



川口市総合防災訓練

10月20日、安行地区の小・中学校5会場で開催。折りからの強雨にもかわからず、体育館では中学生も参加し応急手当や簡易トイレ組立訓練などを行い、いざというときの行動を確認しました。



中学校駅伝大会

10月22日にオートレース場で全市立中学27校が参加。女子は5区11.71km、男子は6区18.05kmを襷でつなぎ、男子は南中学校が5連覇、女子は上青木中学校が初優勝を飾りました。

COMMUNITY

マイシティ
かわぐち

MYCITY

ひと・歴史・かわぐち Vol. 11

このコーナーでは「川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつり」に登場した川口ゆかりの人物を紹介していきます。

集土と化した江戸を緑に

よしだ 権之丞ごんのじょう

今回は、世界にその名が知られるブランドとなった「安行植木」の祖とされる吉田権之丞をご紹介します。

安行の地に植木栽培が根付いたのは江戸時代初期といわれ、関東郡代伊奈氏が奨励したとも伝わります。この植木の里に生きた権之丞。青年期には、農業のかたわら、当時の中心的な植木産地だった染井村（現在の駒込から巣鴨近辺）で、植木栽培の技術を学びました。権之丞が安行に持ち帰った技術は、曲げ物（盆栽仕立て）、挿し木、挿し穂、接木など。今も安行植木の基幹技術です。努力が実を結び庭木や花卉の栽培は順調に広がりました。やがて権之丞は江戸に切花や植木を売り出し「花屋」と呼ばれ安行の名を広めたといわれています。明暦3年（1657）1月、江戸の町は、2カ月近くも雨が降らず乾燥しきっていました。そこへ火災が起きます。本郷から出た火の手は、折からの風で瞬く間に江戸中に広がりました。燃え続けること二昼夜、江戸はその大部分を焼失し、死者は10万人を超えました。焦土と化した江戸の町に、権之丞は安行から植木や苗木、草花を送ります。復興に緑や草花が必ず必要になると考えたの

でしよう。かつて教えを請うた染井の人々への恩返しと思いがあつたのかも知れません。いづれにしても復興需要を機に安行は植木・花卉の生産拠点として発展していくのです。

権之丞が眠る安行の名刹・金剛寺。四季折々を彩る豊かな林の中に、黒御影の石碑がたたずみます。平成14年（2002）、地元安行のみなさんが中心となり行われた没後三百年祭で建立されたもの。江戸の復興を支え、安行植木隆盛の礎を築いた「花屋」は、いまも安行の人々に慕われ続けているのです。

参考文献「吉田権之丞 没後三〇〇年記念誌 2002 吉田権之丞実行委員会」「植木の里 安行」1983、掛川崗二、ふれあい朝日新聞社

吉田権之丞の墓

小松石で造られた舟形の墓石の中央には、観世音菩薩立像が彫彫され、向かって左側に「元禄十六癸未年七月朔日」、右側に法名の「隆清禪定門」と刻まれている。

